

和歌山病院での実習を終えて



笠松 優衣

私たちは呼吸器内科の実習の一貫として結核病棟のある和歌山病院で実習させていただきました。2日間にわたって、結核の基本的なことから臨床的なことまでとても詳しく教えていただきました。セミナーという形でとても詳しく教えていただきましたが、4年生で勉強した時よりも実臨床に触れている分、自分の中に残るものがとても多い2日間でした。閉鎖病棟を訪れたのは初めてで、実際の仕組みなどとても興味深く見学させていただきました。結核に対する隔離ではN95とサージカルマスク以外にもガウンなどを着用している、という勘違いをしていました。実際の感染経路から必要なもの、必要でないものなどを分かりやすく教えてくださって、結核について漠然と抱いていた間違っただイメージを払拭することができました。

また、酸素療法についても実際に酸素マスクや経鼻ネーザルを体験しながら教えていただき、してはいけないこと、しなければならないことなどを自分の身で感じながら学習することができました。

今回の実習で一番記憶に残っているのは、南方院長が教えてくださった胸部Xpの読影です。今までは異常の所見を教科書等で覚えてそれを実際のレントゲンで見るといった方法を取っていました。そのため、ここに異常があると言われなければ気づけないことが多く、応用の効かない読み方しかできていませんでした。レントゲンの理屈から分かりやすく教えてくださって、すごく頭を使って学ぶことができました。今レントゲンを見るときには前と異なった読み方をするようになりました。実習以前とは着目点が変わったように思います。これからの実習で教えてくださったレントゲンの見方を自分のものにしていきたいと思います。

多くの先生方がお忙しいにも関わらず学生に多大なるお時間を割いていただき、詳しいセミナーをしてくださり、感謝しております。教えていただいたことをこれからの実習、医師になった後も活かしていきたいと思います。ありがとうございました。